

2008 安全シンポジウム

テーマ『リギングの歴史～これから』

【日 時】 2008年6月13日（金） 14：30～17：00

【会 場】 東京富士大学 二上講堂（新宿区高田馬場 3-8-1）

最寄駅：山手線 高田馬場駅・地下鉄 東西線 高田馬場駅

【参加費】 無 料

総合司会

・大和田恵久氏

パネラー

- ・石谷正和 氏（ウドー音楽事務所 相談役）
- ・高橋照義 氏（旧 日本武道館 現 古武道協会 局長）
- ・清水卓治 氏（シミズオクト）
- ・腰越礼二 氏（PRGアジア）
- ・本多健二 氏（日本ステージ）
- ・藤井修三 氏（MSI）
- ・鈴木義昭 氏（シミズオクト）
- ・大岸一博 氏（東京舞台照明）

進行役

・片野 豊氏（共立）

①「グランドサポートの時代」

- ・「最初のグランドサポート方法は、どうやってトラスを上げていたのか」
- ・「グランドサポートのメリット・デメリットについて」
- ・「手動式からモーターを使うようになって変わったことは」

②「リギングの初めのころ」

- ・「初めてリギングをした会場は、またその方法は」
- ・「最初に何を吊ったのか・舞台セット・照明・音響？」
- ・「手動から電動～代わっていったのか」

③「これからのリギングと技術」

- ・「ワールドツアーの中での世界レベル」
- ・「米国リギング検定、英国のリギング検定」
- ・「日本では・・・」

主 催 NPO法人 日本舞台技術安全協会
パネラーが変わる場合がありますがご了承願います。

名刺、若しくはこの用紙を、当日受付にご提出下さい

所属（企業・学校・その他）

所属部署

所在地

連絡先

ご氏名

演出空間の技術

リギング技能

演出空間に於ける舞台設備、及び展示会などの吊物設備は会場の大型化と、演出方法も多様化し、ますます複雑化し精緻なものを要求されております。

このように複雑精緻化し進化する技術に対応し、海外でのリギング技能は学術的にも技術的にも精通した、技術者養成が盛んに行われ、その技術者は社会的にも高い評価を得ています。

リギングは、演出効果を表現するため既存の大空間建物の天井梁のポイントに、吊物の支点を設置し、その支点より電動モーターでトラスを吊上げる、若しくは直接、音響機材などの重量物を吊上げる。または、屋外のステーヂルーフに支点を設置する等、特殊な技能を要求されています。

演出空間での吊物現場で働く人々は、玉掛け技能・足場組立・鉄骨類組立等、建築業界で行なっている、技能講習及び特別教育を受講していますが、建築現場とは異なる、演出空間の吊物は更に進化し、特殊な技能を要求されております。

その特殊な技能は、その業務を担う企業内で養っており、内容は、経験地、熟練度、学術的な裏づけ、関連法令等、その水準は各社まちまちです。

今回、演出空間における、リギング技能の標準化を図り、更に技術の向上と知識の向上を図るために『リギング技能検定』を計画します。

このリギング技能は、働く人々の経済的、社会的地位向上を図り、ひいては我国の文化芸術の発展に寄与することを目的としています。

演出空間における、リギング技能は業界独自として認知されるものです。

私達の業界は、日々複雑化している事は周知のことと思います。

従って、この『リギング技能』は進化します。

技能検定に合格しても、永久的なものでは有りません。

年々進化する特殊な技能を意識し、常に高度な技能を身につける様に心がけ業務に従事されることをお願い致します。

NPO 法人日本舞台技術安全協会

理事長 清水 卓治